

海津木苑運営委員会（平成27年度8月期）

会議録

- 日時：平成27年8月25日（火）15時00分 開会
- 場所：古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（14名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	簗原 弘二
委員	奴間 健司	委員	田中 英輔
委員	信國 武雄	委員	盛永 政則
委員	三好 収	委員	安武 品子
委員	安武 正一	委員	横田 昌宏
委員	長崎 功一	委員	渡 行弘

4. 欠席委員（なし）

5. 傍聴者数（1名）

6. 事務局出席職員職氏名

市民部長	智原 弘文	環境課長	橘 勇治
海津木苑場長	伊東 孝廣	海津木苑係長	吉田 義昭
海津木苑職員	三好 英明		

7. 協議内容

- ① 会議録について
 - ・6月期会議録
 - ・8月期会議録署名
- ② 海津木苑運営に関する実施状況
 - ・平成27年6月及び7月の処理状況について
- ③ 海津木苑臭気測定検査結果について
 - ・第1回臭気測定（7月2日（木）実施）
- ④ 海津木苑施設等啓発について
 - ・海津木苑施設見学（花鶴小学校4年生） 6月17日（水）見学者 82名
 - ・海津木苑施設見学（舞の里小学校4年生）6月19日（金）見学者 66名
 - ・平成27年度古賀市職員人権問題前期研修
7月17日（金）、7月21日（火）、7月29日（水）

研修参加者 391名

・海津木苑施設見学（桂川町解放子ども会・中学研合同合宿研修会）

8月7日（金）見学者 42名

⑤ 海津木苑将来構想策定について

・業務工程表

8. その他

・し尿・浄化槽汚泥貯留槽沈殿物清掃に伴う（10月5日実施予定）、
搬出汚泥処分に関する手続き

概要

15:00 開会

1. 古賀市あいさつ

2. 委員長あいさつ

3. 協議事項及び報告

① 会議録について

・6月期会議録（事務局より説明）
・8月期会議録署名（事務局より説明）

【質疑・意見】 なし

② 海津木苑運営に関する実施状況

・平成27年6月及び7月の処理状況について（事務局より説明）

【質疑・意見】 なし

③ 海津木苑臭気測定検査結果について

・第1回臭気測定（7月2日（木）実施）（事務局より説明）

【質疑・意見】 なし

④ 海津木苑施設等啓発について

・海津木苑施設見学（花鶴小学校4年生）
・海津木苑施設見学（舞の里小学校4年生）
・平成27年度古賀市職員人権問題前期研修

7月17日（金）、7月21日（火）、7月29日（水）

・海津木苑施設見学（桂川町解放子ども会・中学研合同合宿研修会）

（事務局より説明）

【質疑】

委員 : このような研修を受けたいが可能なのか伺いたい。

【答弁】

海津木苑 場長 : 研修については、今後も受け入れて行います。委員の方には、お知らせをいたしますので、是非参加いただきたい。

[答弁]

市民部長 : 市役所において職員の人権研修については、庁舎内企画調整会議において協議を行い、テーマを設定し今年度の前期研修会を行なっております。なお、行政の附属機関等については、庁舎内企画調整会議へ委員が言われた要望の提案を行いたい。

⑤ 海津木苑将来構想策定について

・業務工程表（事務局より説明）

[質疑]

委員 : 海津木苑近未来プロジェクトのメンバー構成を伺いたい。

[答弁]

海津木苑 係長 : メンバー構成については、座長に横田副市长・副座長に市民部智原部長、関係課といたしまして、下水道課矢野係長・財政課割石係長・環境課ごみ対策係智原参事補佐・環境課環境整備係長崎係長、事務局長として環境課橋課長、事務局に海津木苑伊東場長、海津木苑吉田係長。なお、これまで海津木苑近未来プロジェクト会議の座長を務め、協議内容等に熟知されております坂本副市长にもメンバーに入っている。

[質疑]

委員 : メンバーは、行政職員で構成された近未来プロジェクト会議ですか。

[答弁]

海津木苑 係長 : はいそうです。

[質疑]

副委員長 : 今、説明をいただいた将来構想以外に意見とし、今後委員会での論議を行いたいと思っています。海津木苑の構想は、今から15年～20年前の平成になり直ぐ一時は、67キロリットルの処理能力運転が続き施設は、対応できるのかと運営委員会で論じた経緯があります。その後公共下水道事業が進みし尿等の搬入が減り、しかしゼロにはなりません。当時平成の合併騒動が叫ばれる中、隣接する新宮町は、し尿等福岡市に委託し、下水道事業も遅れていることもあり、海津木苑の処理能力に余裕があったため、隣接する新宮町に声をかけ合併も視野に入れ、受け入れて施設運転をとというのが当時の発想です。執行部側より、施設を20年、30年と施設運転すると、建物及び設備機器等使用出来るのか確約できないこともあり、新宮町へ受け入れの協議を申し入れることが出来なかった。また、地元との協定もありそのような複雑な問題があった経緯がありました。その後、行政も検討し月日が経ち今日

に至っています。し尿・浄化槽の合計搬入量が 1,000 キロリットル、処理能力に対して 50%であり、報告では、古賀市単独で将来構想を考えており規模が小さいと感じています。福津市においては、し尿等を宗像市のし尿処理施設へ投入をしています。海津木苑が十分使用出来るか判りませんが、運営委員会でも申しましたが、地元と協議する必要があること、今の状況を今後どうするのかバイオマスにするのか、行政、地元お互いにということで、新宮町の方と話しをするなかで、新宮町は財政的に厳しい状況にあると思います。新宮町は、来春小学校の開校があり、3年後には、中学校ということで学校建設に多大な公費が掛かる状況があります。新宮町のし尿は、久留米の処理施設へ委託して年間約 1 億円と聞いています。そのような意味でここ海津木苑に余裕があるのならば、そのような状況を視野に入れ将来構想を考えてはいかがでしょうか。そのためには、地元と協議をする必要があると思いますがいかがですか。

委員長 : 工程表では、9 月末で実績データ収集・分析、10 月より副委員長言われました中身について処理対策案、総合的な比較検討、今の時点ではご意見となりますが、要望、意見について回答できるものがあれば話を深めていただきたい。

[質疑]

副委員長 : 過去に私が話した時に、施設が維持できるのかと伺ったところ行政側の不安があった。今回の将来構想策定に含まれているのか。

[答弁]

環境課長 : 将来構想については、皆さんご心配もあると思います。将来構想策定については、現在データ収集、今後、量の推計を行う。基本的な考え方ですが、今後古賀市のし尿処理をどのような方法とするのか、可能性がある方法を抽出し現実的に可能なか費用等精査し、可能性がある方法を絞っていく。最終的に 3 月末に成果品として一つに固まっているものではない、可能性があるもの費用面を含めいくつかの選択肢を抽出し、メリット・デメリットを出し報告書を基に、施設が維持できるのかということを含め地元と十分に協議を行いたい。

[質疑]

委員 : 地元としては、プロジェクトの発足は良いと思うが、少し遅いと思います地元としては、今後どのように進むのか心配しております。たとえば、海津木苑施設も老朽化しており、このまま使用継続するのか他の場所に移転するのか、バイオマス施設となるのか方向性を出す前に、地元と協議があつて当然だと思います。地元の考えや思いを聞くべきと思います。

[答弁]

環境課長 : 地元の協議を早期に考え、出来る内容として明確になりませんが、現在行っている委託の工程的な説明等、ご意見ご要望を承ることは出来るかと思っておりますので、検

討させていただき、ご返事したい。

[意見]

委員 : 早いほうが良いと思いますのでよろしくお願いします。

[答弁]

市民部長 : 先ほど委員のお話で、業務工程表下段のプロジェクトの関係ですが、基本副市長をトップに市行政職員で、平成 25 年度より立ち上げプロジェクトの中で、し尿処理場の将来の在り方について議論を重ね、今回その内容について業者委託しており、環境課長が申しましたように将来構想の選択肢を数種抽出し、財政的な面も含め精査していただく、進捗状況については、地元と積極的に協議をし、運営委員会においても報告を行なっていきたい。

[要望]

委員 : 新しく出来る施設についての、プロジェクトの中に運営委員会の委員の方を、メンバーに入れてはどうか。

[答弁]

市民部長 : 貴重なご意見とは思いますが、先ほども申しましたように、副市長を座長として関係課の担当者を交えた庁内プロジェクトで、工程表の下段にあります会議につきましても、現状の組織でおこないたい。委員が申されました要望については、運営委員会及び地元との協議を報告する中で、ご意見を伺いたい。

[質疑]

副委員長 : 確認の意味で伺います。海津木苑設置当初は大変であった、地元も断腸の思いで受け入れた経過があり、市は、しっかり受け止めて地元と協議をする必要があると思います。このような工程表を作成して、運営委員会の中で中間報告をするべきだと思いますがいかがですか。

[答弁]

環境課長 : 過去の経緯については、十分に踏まえて、地元協議をさせていただきたい。報告については、委託作業途中の報告で出来るものは、報告したい。

[質疑]

委員 : 今回の業務委託については、7 社応札して 4 社が辞退し 3 社の中で、990 万円、640 万円、538 万円という金額で落札され、辞退が 4 社となった理由と応札金額の大きな開きについて説明をお願いしたい。

[答弁]

海津木苑 場長 : 環境関係のコンサルタント業者7社の指名入札としたが、し尿処理施設に対しての得意、不得意の業者がおり、例えば焼却炉施設を得意とした環境施設のコンサルタント業者、また詳細にし尿処理施設を得意とする環境施設のコンサルタント業者となったことから、4社の業者が辞退されたと捉えております。金額の開きについては、規制緩和の中で環境コンサルタント業務を株式会社において、環境計量士等の資格を有するコンサル業務を行なっています。以前は、財団法人、環境省外郭団体等が行い、今回落札された一般財団法人日本環境衛生センターは、従来より財団法人として、し尿処理施設、ごみ処理施設等に深く関わり施設の情報量も多いことから、今回の金額になったと推測している。

[質疑]

委員 : 今回の委託でコンサルに何を求めているのか、職員が考えているパターンを3つに絞る事を求めているのか、または、厳密に人口推計やし尿等の推計やコストを考えて最適なものを求めているのか。先ほどの説明を聞く限り報告書が提出されても、絞り込み作業を委託したと受け取られる説明としか感じられない、その部分は、専門業者に委託しているので職員が考えているパターン以外で、専門的に考えた結果最善の選択肢は何であるのか。基本構想を考える上で、報告書が提出されて更に検討することになると二重三重となり、コンサルに何を求めたのか伺いたい。

[答弁]

環境課長 : 入札については、得意、不得意があると思います。今回の作業については特殊な作業と捉えており、し尿処理施設建設の委託であれば多くの業者がいるが、今回の委託は、どのようなケースがあるかパターンを探ることであり得意、不得意があると考えております。次にコンサルに何を求めるのか職員レベルのプロジェクト会議で、案を出しそれをベースに今回コンサルに発注し、案の精度を高める処理方法を選択抽出し、現実的なのか今あるパターンの精度を高めるために行っている。

[質疑]

委員 : 精度を高めるのであれば、地元との関係、政治的判断を優先するのか、或いは人口推計、し尿の量、コスト等、或いは国から求められている公共施設の総合管理計画で、統一するか廃止するか存続するか整理しないと、人口は増加しないで公共施設を抱えると維持管理が大変との指摘がある。もろもろ考えると、課長が話された精度を高めることを求めたのであれば、あくまでコンサルは、あえて申しますが、地元の配慮、政治的判断は考慮せず客観的にデータに基づいて、何が行政コストに有利か。私は、コンサルは地元への配慮、政治的判断等は考慮しない、私は無理だと思えます。発注者は市であり、精度を高めるのであれば将来推計とコスト、最適の判断を行う、それについて地元小提示協議を行う。

4. その他

・し尿・浄化槽汚泥貯留槽沈殿物清掃に伴う（10月5日実施予定）（事務局より説明）

搬出汚泥処分に関する手続き

[意見]

委員 : 施行令の条文を資料としていただきたい。

[回答]

海津木苑 : 次回作業実施の報告をさせていただき資料として施行令の条文を配布する。

場長

[質疑]

委員 : 処理状況説明の中の、古賀市の清掃工場使用料で汚泥搬出量、し渣搬出量とあり清掃工場料金にどのように影響するのか。

[回答]

海津木苑 : 清掃工場に搬出している分については、余剰汚泥であり、バクテリアが処理の過程で増加し、泥水の状態の汚泥に薬品を添加し粘土の状態で清掃工場に搬出し、焼却熔融スラグとし再生利用している。今回のし尿・浄化槽汚泥貯留槽清掃は、別物であり別途費用が掛かる。

16:20 閉会

※ 次回の運営委員会は、10月を予定しております。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

平成 27 年 10 月 / 日

委員長

結城 弘明



委員長の指名する
出席委員

加藤 健司

